

近世多賀社における校割帳改について

― 県庁伝来旧藩記録「山口多賀大神宮御文庫書目」の分析をとおして ―

重田 香澄

はじめに

筆者は、かつて、近世多賀社（現山口市〔1〕）にお

いて化政期に作成された蔵書目録について分析を行なった〔2〕。その結果、A・文化八年（一八一―）の

校割帳改に際し作成された「多賀大社御書物目録」

（0001〔3〕、以下、「多賀社目録」と、B・文政七年

（一八二四）に作成され、近隣への貸し出し等にも

供された「山口多賀大神宮御文庫書目」（0002）及び

その後継版（0003・0004）の二種があること、それ

ぞれ目的に応じて排列が異なることを指摘した。

本稿は、その時に挙げた課題のひとつ、当館蔵多賀社文庫の各種目録類と、藩府から県庁へと引き継

がれた県庁伝来旧藩記録 967 「山口多賀大神宮御文庫書目」との関係を整理し、近世多賀社における校割帳改の実施状況を考えるものである。

「山口多賀大神宮御文庫書目」は、文化八年の校割帳（多賀社目録）を前半に、奥書が落ちて年次不明の校割帳を後半に合綴したものである。多賀社における校割帳改の実施状況を確認したうえで、この目録（以下、「旧藩目録」とする）の前半・後半の順に検討していく。

一 多賀社で実施された校割帳改

校割帳の「校割」は「交割」とも書き、萩藩及び

その支藩では、寺社の什物目録もしくは役所の引継の意で使われていた⁽⁴⁾。藩内の他の寺社に対しても実施されており、当該寺社の文書群中や県庁伝来旧藩記録内に関連文書が散見される⁽⁵⁾。但し、萩藩の校割帳改に関しては、「万治三年（一六六〇）毛利綱広条々（諸寺法度の事⁽⁶⁾）」に関連するとみられる記述はあるが、校割帳の名はない。

手続きとしてはおおよそ次のとおりである⁽⁷⁾。①住持・社職の代替わり後九〇日以内に勘場を通じて藩の寺社所へ校割帳改の実施を願ひ出る。②寺社所検使が証人として当該寺社へ派遣される。③校割帳をもとに証人が確認、署判する。④検使の報告をもとに寺社奉行が承認、署判する。

このような手続きを経るため、校割帳の奥書には、当該寺社の住持・社職による署判のあとに、検使の署判、寺社奉行の署判が続く。なお、校割帳は二部作成され、寺社所と当該寺社、両方で保管された。

多賀社の校割帳改については、『防長風土注進案』（以下『注進案』）に記載がある⁽⁸⁾。それによると、元禄九年（一六九六）の高橋左近右之、文化八年（一

八一）の高橋撰津守有文（右文）、天保五年（一八三四）の高橋城之介有武の代、計三度行なわれたという。江戸時代、多賀社大宮司高橋家の当主を務めたのは、言延、佐延、右之、右好、右弥、有文、有武、右胤の八人なので⁽⁹⁾、代替わりに合わせて確実に実施されてきたとは言いがたい。

文化の校割帳改は「校割帳御改一件」⁽¹⁰⁾から、天保の校割帳改は「交割帳御改願出控 社職代替二付」⁽¹¹⁾からある程度の経緯が窺えるが、元禄の校割帳改については、現在のところ『注進案』の記述以外に史料を確認できていない。但し、同書に引かれた奥書から、校割帳改の目的と経緯が窺える。

校割改め事ハもとより諸寺社にもこれある事なれとも当宮には往古よりの神器を具へ、国書且和漢の雑書ともを余多伝へもちて、奉行所の検正をうくるをもて当宮の例とせり、よて校割改奥書をあらはすこと左の如し

元禄九子

山口多賀大社御神宝帳

十二月

高橋左近

これによると、校割帳改は、社の宝物等や書籍の把握を目的としたものと認識されていたことが窺える。寺社奉行の「検正」を受けるのは他寺社も同じであるが、それをわざわざ「当宮の例とせり」としているのが、右之のときに代替わり時の恒例と決められたようである。

次の文化の校割帳改は天明元年（一七八一）の社職拝命後、三〇年近く経過しての実施だった。この背景については、有文がまとめた「高橋家年代記」（1166）天明元年の次の記述が示唆的である。

- 一、二月九日之夜半勘解由右弥乱氣出行、行方不知、二月廿五日平蓮寺堤江入水、寿五十一歳、
- 一、閏五月九日梅之助社職被仰付候、願出之儀ハ今天神大宮司真庭左中・山王大宮司鈴木主税方申出候、梅之助十六歳也、
- 一、梅之介事八月廿九日主殿と改名被仰付候事、
- 一、同後見役三宮大宮司同名木工頭雄省也、
- 一、主殿実名右文トス、

先代右弥の急死を受け、有文は若年で社職に就任したため、後見が必要な状態であった。校割帳改を

行なう余裕がなかったものと推察される。実施の願い出が文化四年四月、受理が約四年後の同八年で⁽¹¹⁾、受理された時の「高橋家年代記」の記述には「元禄已来無之所、此度願筋々調候事、」とあり、懸案を片付けた満足感らしきものが窺える。

続く天保の校割帳改は、同三年十月の有文の病死を受け⁽¹²⁾、翌月に有武が社職を拝命、さらにその翌月の閏十一月には校割帳改を願い出ている。途中、証人藤井七右衛門の病死による堀権兵衛への交代を挟みつつも、天保五年五月には受理されている。

このように円滑な進行の背景には、有武が成人し、家職についてある程度経験を積んでから社職を継いだということだけでなく⁽¹²⁾、「校割帳御改一件」に「此後代替之節ハ余分之書物書添御帳江入申度事ニ候間…」のとおり⁽¹³⁾、文化の校割帳を基礎とし、増加分を書き添えるだけで済ませることが可能であったことを窺わせる。

なお、有武は万延元年（一八六〇）に死没、翌年には右胤が跡を継いでいるので、このときも校割帳改があった可能性は否定できないが、少なくとも多

賀社文庫内に関連史料は見当たらない。旧藩目録が有武の代のものか、右胤の代のものかは第三節で検討する。

二 旧藩目録前半と文化の校割帳改

旧藩目録前半は多賀社目録とほぼ同じ内容、排列である。

異なる部分は目録の末尾で、まず、「メ四百八十一部／巻数千百八十九部也／軸巻冊共二」の後、「右ノ外ニ左ノ分御改之部也」として挙げられているものの数が、多賀社目録の七点に対し、旧藩目録は一七点である。続く「右私代替ニ付此度御改被仰付前書之通り相違無御座候、以上、／文化八末 印刷／三月 高橋摂津守書判」以下、証人・寺社奉行の署判が旧藩目録にはあるが多賀社目録にはない（14）。

奥書の書式や「書判」とあること、多賀社目録が反故に書かれていることを考えると、多賀社目録は、文化の校割帳の多賀社に収められた本に一部手を加えて写したものの、これに対し、旧藩目録は寺社所に

収められた正本の写しとみるのが妥当だろう。

次頁【表1】はそれぞれの「右ノ外ニ左ノ分御改之部也」を対照したものである。多賀社目録が書籍や記録を列挙しているのに対し、旧藩目録は他のものも載せている。

多賀社目録は、おそらく、「御書物目録」とするにあたり、それに近いもののみになるように加減したのであろう。この目録には文化十四年段階での校合の書込みもあり、書籍目録として機能させようという意思が感じられる。

旧藩目録は、伝来の性格上、改変の可能性は少ないといえる。そして、画幅や什器も載せているところを見ると、単なる書籍目録ではなく、校割帳として必要な情報を載せていたのではなからうか。

ここで考慮したいのが、右之以後、内匠右好・勘解由右弥と、代替わり時に校割帳改をしてこなかったということである。

有文が校割帳改を願い出る二〇年程前、寛政九年（一七九七）の、「多賀大神宮諸控惣目録」（0739、以下「総目録」）を皮切りに、宝物や寄附された書画、

【表1】「多賀大社御書物目録」・「山口多賀大神宮御文庫書目」内「外改分」

多賀社目録		旧藩目録	
No.	書籍名	No.	書籍名
1	御当職其外御役人帳	1	御当職其外御役人帳
2	唯一神道服忌令問答秘書	2	山口高峯古城ノ硯
3	祭祀祝文集 折本	3	山口高峯古城ノ硯ノ記
4	小倉山荘色紙 尊円親王石橋	4	諸家方御書類 軸物
5	連歌 納屋春読自筆	5	榎本家書翰 軸物
6	連歌 納屋春読独吟元和二年 厳島社奉納	6	清水家諸翰 軸物
7	陶道麒麟会屋形義隆公御発句 其外	7	備前入宗宅宗徴書翰 軸物
* 左側「多賀社目録」は「多賀大社御書物目録」(多賀社0001)、右側「旧藩目録」は「山口多賀大神宮御文庫書目」(県庁旧藩967)を指す。 * 「書籍名」は常用漢字に改める他は、目録上の表記に従った。(以下の表も同じ) * アミガケ部分は共通するものを示す。		8	益田家書翰 軸物
		9	宝現霊社并殉死之霊名
		10	雲谷等瑤(文海翁ト云)筆掛物 (梅ニ鶯)
		11	佐々木縮往筆(岩ニ鷹)
		12	雲谷等哲筆(山水)
		13	佐々木玄龍筆(雁ノ大字ニ注書 小字)
		14	唯一神道服忌令問答秘書
		15	祭祀祝文集 折本
		16	文台 簞入
		17	大麻 長サ五尺

社記等の目録が作成されており、この時期、有文が社の什物の管理・把握に注力したことがわかる。ここで、最初につくられた「総目録」の冒頭に、「左近・

内匠・勘解由・摂津守四代之分」とあることに注目したい。

校割帳改を行なわなかった分、様々なものが整理状態のよくないまま蓄積されていたのであろう。この目録はそれらの整理に着手した目録であったものと考えられる。

「総目録」内には書籍をまとめた「什書総目録」もある。これと、多賀社目録収載書籍の関係を一覧にしたものが次頁【表2】である。両方に載せられているものがあることから、文化の校割帳改、特に書籍については、悉皆調査の形を取ったものと考えられよう。文化の校割帳改に際し、時間がかかった理由として、校割帳改の手順に不案内であったことと、整理する物品の量が多かったことが挙げられるのではなからうか。

文化の校割帳は書籍目録の充実に対し、その他物品の少なさが特徴となっている。これについては、同時期に作成された「御当家様御寄附書立絵図并社記写総目録」(0817、寛政十一年)等、各種目録の作成が影響しているのではないかと考えられる。

【表2】「多賀社大神宮諸控総目録」内「什書惣目録」掲載書目一覧

No.	書籍名	巻冊	多賀社目録
1	諸国多賀大神宮御鎮座記		—
2	周防国吉敷郡多賀大神宮伝記 但御造営其外		—
3	周防国吉敷郡多賀大神宮伝記 但御寄附其外		—
4	防州多賀大神宮勸請并諸説		14-079
5	稲荷大明神諸国御鎮座本記		14-080
6	人丸社御鎮座本記		14-082
7	築山大明神伝		—
8	畑村御嫡ノ森ノ記		02-046
9	芸州巖島社御奉納毛利一万句三ツ物		14-062
10	芸州巖島大明神奉納連歌一万句		14-063
11	芸州巖島社御奉納両吟千句三物集		06-006
12	巖島御奉納連歌一万句三物		14-064
13	蝗并昆虫考	1	—
14	月読宮痾瘡要伝	1	—
15	月読宮痾瘡加持大事并痾瘡呪文守大事痾瘡間大事	1	—
16	痾瘡神伝抄		—
17	増補評註月読社痾瘡伝	5	—
18	清祓	3	—
19	諸守	1	—
20	符印	2	—
21	防州山口鴻嶺城并瓦略由		—
22	正一位柿本大明神略由	1	—
23	月読宮痾瘡守護縁記	1	—
24	小倉山荘色紙和歌 右尊円石摺也	1	外-004
25	大内家拝領東山印籠略由	1	—
26	拝領三池伝太光世刀之伝	1	—
27	三池伝太光世系雨	1	—
28	蒔絵物記并三池太刀記	1	—
29	三池刀中銘書	1	—
30	大内殿御家中名付	1	11-016
31	周防山口十境詩	1	09-020
32	周防十境謠	1	13-012
33	大内由來記并系図	1	11-017,018
34	大内様御家根本記 言延撰	1	11-015
35	大内家類聚抄系譜	1	11-019
36	淡州多賀神職長寿補益之神方伝		—
37	防長若御国中高橋家集		—
38	源始高橋氏系譜写	1	—
39	先祖民部大輔右延伝	1	—
40	先祖右延言延伝記 多賀家出来并御書御判物写	1	—
41	源右好歌并発句		—
42	皆右弥歌并発句		—
43	源有文発句帳 附人々		—
44	雪舟伝	2	14-44
45	大内義隆公辞世歌并若宮御牌名考		
46	十八殉死之銘銘辞世并牌名口考	1	
47	大内義隆公画像贊写 但龍福寺之分	1	
48	古今見聞私記 但右文撰		

* 「多賀社目録」欄の番号は前稿表1による。
* 同欄斜字は書名が完全に一致している訳ではないが、巻数や原本の状況から同じものと判断されるものを示す。

近世多賀社における校割帳改について（重田）

寛政五年頃、萩藩は領内の寺社に対し、宝物等の書き出しを提出させている⁽¹⁵⁾。多賀社が対象となっていたかは記録にないためわからないが、このような動きも意識しておく必要はあろう。什物等については寛政期の目録に任せ、特に整理が必要だった書籍を中心に文化の校割帳改を行なったと考えると無理がないのではなからうか。段階的に、網羅的に整理を行なった結果、その後は増加分を書き添えるだけとなったのであろう。

三 旧藩目録後半と天保の校割帳改

旧藩目録の後半については、掲載物品を一覧にしたものを【表3】として文末に付した。便宜的に項目ごとに番号を振ってある。こちらは、書籍だけでなく什物・記録等についても目録があり、文化の校割帳改に対する先程の推測を裏付けるものと考ええる。目録を通覧すると、右文時代の物品・記録が多く入っていることがわかる⁽¹⁶⁾。但し、それ以前のものも入っているので、有文の目録の抜けを補うか、校

割帳としてまとめておこうとしたものか、一層の検討が必要である。

書籍目録部分をみると、文化の校割帳に載せられたものはほぼないといつてよい。また、「天保五年校割帳御改三百八十三部／惣巻数九百十二巻之内」の付紙を持つ「日本古今人物史」(塩田家文書、和漢440⁽¹⁷⁾)があり、且つ、県立山口図書館多賀文庫内にある天保六年以降に刊行された書籍もない⁽¹⁸⁾。

書籍の総点数・総巻数も右の付紙と近い値であり、旧藩目録後半は、天保の校割帳改の際に作成された校割帳の写し、あるいはそれに準ずるものと考えてよいのではなからうか。

右のような目録の収載状況を考えると、天保の校割帳改にあたっては、文化の校割帳改のときの「此後代替之節ハ余分之書物書添御帳江入申度事二候間」⁽¹⁹⁾という希望が通ったものといえよう。

なお、この書籍目録は箱で分けて示してある。箱ごとにおおよその傾向はあるが、文化の目録のように厳密に分類されている訳ではないようである。

また、天保の校割帳は、文化の校割帳から落ちた

ものも収載している。例えば箱4・8「香椎宮・宇佐宮社伝附武内伝」（1911）には「文化八年校割帳御改之外」の付紙がある。収載基準の違いを考える上で重要であろう。

付紙に関しては、当館多賀社文庫内で、文化の校割帳改関連の付紙は見るが、天保五年のものはあまり見ないことに注意したい。前述のように、文化の校割帳改に関しては帳外のものにまで付されていることを考えると、天保の校割帳改についても同様のことがあってもおかしくないのだが、事例としては極めて少ない。板本については県立山口図書館多賀文庫にあるので、そちらの確認も必要になるが、これらの付紙がそれぞれの校割帳改の段階で付されたのではない可能性も含めて考えるべきかもしれない。

まとめと展望

以上、旧藩目録を軸に、多賀社の校割帳改について考えてきた。雑駁ながらまとめると、旧藩目録は文化・天保の校割帳の写しとして、藩府から山口県庁へと引き継がれたこと、文化の校割帳改を行なうにあたり、伝統の断絶や未整理に近い状態での物品の蓄積等、いくつかの障壁があったこと、天保の校割帳改では文化の時の情報をもとに、それに追加する形で円滑に実施されたということである。

今回、文化と天保、両方に目を向けたことで、「多賀大神宮御文庫書目」（2002～2004）との関係や箱の秩序の形成過程、付紙の貼り方等、その間の管理のあり方に関する課題が明確になったように思う。今後、ひとつずつ説明していきたい。

註

- （1）現在山口大神宮内に鎮座。
- （2）「近世多賀社文庫の目録二種について」（『山口県文書館研究紀要』四七、二〇二〇年）。以下、「前稿」と

する。

- （3）多賀社文庫。以下、多賀社文庫内の資料の番号について、は、半角アラビア数字四桁のみで表示する。
- （4）山崎一郎「萩藩当職所における文書の保存と管理」

- 『山口県文書館研究紀要』二三、一九九六年。
- (5) 「大成寺校割帳」(徳山毛利家文庫「寺社・町方」⁹¹)、⁹²、「大照院校割帳新入物控」(県庁伝来旧藩記録⁹⁶⁴)、「普濟庵校割帳」(市原家文書40)、「校割帳」(月輪寺文書14)。
- (6) 『山口県史料編近世二』萩藩近世前期主要法制史料集²⁷⁷を参照。
- (7) 「校割帳御改一件」(084)、「交割帳御改願出控 社職代替二付」(0897)。詳細は前稿。
- (8) 「上宇野令之三」(風土注進案「旧藩」²⁴¹)。刊本は『防長風土注進案』山口宰判下、第二上宇野令之三。
- (9) 「源姓高橋氏系譜写」(1162)、「高橋家代々興廃大略」(1165)、「高橋家年代記」(1166)による。
- (10) 084。
- (11) 0897、「松原平馬近晴伝・高橋文之進伝・同城之介伝」(1176)、「有武日記 天保三年」(1203-2)。
- (12) 有武は寛政九年(一七七七)生まれ(1176)。天保三年時点で数え三十六歳。神道裁許状は文化六年に下され(1177)。日記も文政六年(一八二三)から確認できる(1202)。なお、吉田祥朔『増補近世防長人名辞典』(マツノ書店、一九七六)には、「有胤後に有武」とあるが、史料上の署名等を見る限り逆である。
- (13) 同史料四丁目。

- (14) 前稿では多賀社目録にも有文署判まではあるとされていた。ここに訂正する。
- (15) 「防長両国神社仏閣宝物書出控」(毛利家文庫12社寺¹¹⁹)。
- (16) 【表3】什物45、47、85、記録3等。また、文政七年(一八二四)の年紀をもつ「多賀大社御文庫書目」(書籍類箱36・37、多賀社0002・0003に該当)が書籍として収載されているのも興味深い。
- (17) 天保の校割帳改以後に塩田家が借用したものである。本の貸借については別に考察したい。
- (18) 「弘化新板庭訓往来」(W370.9/A、弘化三年<一八四六>)、「古今和歌集真名序」(W911.1351/A、嘉永三年<一八五〇>)。
- (19) なお、前掲註5「大照院校割帳新入物控」(県庁伝来旧藩記録⁹⁶⁴)も、前回校割帳改以降の増加分だけを採録したものである。これは安政五年(一八五八)のものであり、時代が下り、蓄積が多くなるほどこのような方法が採られたものと考えられる。

【表3】「山口多賀大神宮御文庫書目」（県庁旧藩964）後半一覧

- * 「項目」は項目名、{No.}はそれの中での排列を示す。
 * 「物品・書籍名」は常用字に改める外は目録上の表記に従い、判読不能は■とした。
 * 「巻冊」は目録上の表記から類推できる範囲で記入し、複数巻の合綴については冊数を優先した。判断に迷うものは斜字とした。
 * 「多賀社目録」は「多賀大社御書物目録」に収載されている場合に限り、前稿表1の番号を記入した。斜字は同一書籍の可能性が残るものを指す。

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御社什物類 其外	1	多賀大神宮額 長三尺横壹尺八寸貳歩／筆小倉宰相中將豊季朝臣	1	-
	2	山王社額 山王大権現 長壹尺八寸五歩横九寸六歩／筆不知	1	-
	3	床浦大明神縁起	1	-
	4	床浦大明神御戸帳	1	-
	5	神鏡 但大小有之	3	-
	6	神鏡台 但大小有之	3	-
	7	楼門大鈴	1	-
	8	太鞆	1	-
	9	太鞆台	1	-
	10	吉田家符印 箱入	52	-
	11	唐櫃 朱塗金具大内菱	1	-
	12	御祭礼神幸行列次第 板ニ記之	1	-
	13	四神鉾	4	-
	14	四神鉾台	4	-
	15	挑灯掛幟台	2	-
	16	火祭行事壇	1	-
	17	大幣串	8	-
	18	鳥居	1	-
	19	鳥居台	1	-
	20	濱床 四方	1	-
	21	賽銭箱	4	-
	22	短刀 銘吉光	1	-
	23	短刀 銘信国 但白鞘入錦袋入	1	-
	24	短刀 無名 但白鞘入	1	-
	25	短刀 無名 但白鞘入	1	-
	26	禁裏様御箸 箱入	1	-
	27	御即位庭上之図扇子	2	-
	28	御即位ニ付五万石以上御大名御賀御進献扇子	1	-
	29	古銭 神功開宝 和同開珎 南無阿弥陀仏 大平通宝 篋入	4	-
	30	古銭	1箱	-
	31	古鏡 但大小有之	12	-
	32	天文廿年長慶御会紹巴師自筆連歌懷紙 五十員	1	-
	33	天文廿年長慶御会紹巴師自筆連歌懷紙添書	1	-
	34	曆 寛政四年方天保五年迄	43	-
	35	古日向守就隆公御書 横物	1	-

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御社什物類 其外	36	宝永六年五月於多賀大社御両殿様御祈禱連歌		-
	37	宝永二年十一月於多賀大社法楽連歌 百韻	1	-
	38	正徳二年六月於多賀大社伊勢大宮司左馬允九十賀連歌奉納懐紙 百韻		-
	39	男子女子孕胎願行事之巻	1	-
	40	無子者持子禁厭之巻		-
	41	享保式年丁酉十一月内匠頭右之江御褒美被仰渡候御書附	1	-
	42	元文四年己未十二月内匠頭右好江御褒美被仰渡候御書附	1	-
	43	御烏帽子 紫御懸緒付	1	-
	44	沢瀉御紋御狩衣	1	-
	45	金花鳥御末広 右文化八年未ノ二月從齊熙公拝領被仰付候事	1	-
	46	御白服	1	-
	47	白御帶 右文政九戌ノ十月從齊元公拝領被仰付候事	1	-
	48	伊弉諾尊伊弉冉尊天照大神御誕生御養育之図	1	-
	49	瓊杵尊日向国高千帆峯降臨之図	1	-
	50	楼門御額文字之本書 小倉宰相中将豊季朝臣染筆	1	-
	51	大己貴大神 御杖代兼出雲国造從孝筆	1	-
	52	天皇承統譜	1	-
	53	神祇統系紹運之図	1	-
	54	歴代帝王承統譜	1	-
	55	神道弁	1	-
	56	御即位庭上之図	1	-
	57	吉川惟足筆	1	-
	58	若松鶴	2	-
	59	勘解由小路左京大夫資善卿御筆 横物 建仁式年歌合のときなる云々	1	-
	60	大嘗会之式	1	-
	61	多賀大神宮正祭和歌会兼題懐紙 但寛政二年四月中ノ午日ノ分	1	-
	62	多賀大神宮奉納之和歌 寛政之頃	1	-
	63	多賀大神宮法楽探題和歌 寛政十二年九月	1	-
	64	多賀大神宮奉納連俳	1	-
	65	諸家より到来和歌	1	-
	66	多々良の濱藻	1	-
	67	義隆公御辞世并殉死銘々詩歌	1	-
	68	從五位下行民部丞源朝臣右延二百五十年忌寛政十二年九月朔日正当和歌会兼題之懐紙	1	-
	69	從五位下行民部丞源朝臣右延二百五十年忌懷旧和歌	1	-
	70	從三位義興卿三百年回追福懷旧和歌	1	-

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御社什物類 其外	71	雪舟之伝并狩野栄川奥書	1	-
	72	御手鑑	1	-
	73	月読神社瘡瘡療養記	1	-
	74	月読尊神徳諸国月読神之事	1	-
	75	月読神社瘡瘡守護之事諸国瘡瘡神之事	1	-
	76	山州名跡志	22	-
	77	山城国月読社参拝記 有文筆	1	-
	78	年中重宝記	6	-
	79	京の水	2	-
	80	京図	2	-
	81	都名所図絵	6	-
	82	近江国多賀大社之図	1	-
	83	近江国多賀大社参詣道	1	-
	84	淡路国多賀大社伝	1	-
	85	淡路国多賀大社参拝記 文政二卯七月三日有文筆記	1	-
	86	をのころ嶋の遺趾	1	-
	87	筑前国多賀大社参詣記 有文筆記	1	-
	88	周防国山口多賀大社御縁起次第	1	-
	89	周防国山口多賀大社別宮撰社御神号并祭日附	1	-
	90	周防国山口多賀大社少宮之図形并讃之解	1	-
	91	多賀大社御相殿三社六神御鎮座之事	1	-
	92	多賀大社神薬神教丸調合薬品	1	-
	93	多賀大社延寿丹調合薬品	1	-
	94	多賀大社往古御勸請之次第心覚	1	-
	95	天地大神宮之伝	1	-
記録類	96	縁結之神由来	1	-
	97	狐の宮の伝	1	-
	98	運の守神由来	1	-
	99	伝説星之事	1	-
	100	橋之由来附り渡神之事	1	-
	101	山口十社勸請由来其外	1	-
	102	山口多賀大社十二景之注書	1	-
	1	多賀大社御祭礼之節社家中出勤着座之図絵	1	-
	2	多賀大社家中勤不動之帳	1	-
	3	日記 文化九年より天保五年迄	1箱	-
箱 1	4	宝現霊社御除地江引移一件 本末両家ト龍福寺御書下ケ之事／本末合書之事／御鎮座之次第其外	1櫃	-
	5	宝現霊社上梁棟札之写	1	-
	6	宝現霊社遷宮之記録	1	-
	1	大八洲図説	1	-
箱 1	2	神道天瓊矛記	1	-
	3	磯馭慮島日記	1	-
	4	神国女訓抄	1	02-129

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御 文 庫 書 籍 類 箱 1	5	神社考 詳節	1	—
	6	廿一社記	1	—
	7	廿二社註式 群書類従ノ内	1	—
	8	廿二社本縁 群書類従ノ内	1	—
	9	神社啓蒙	8	—
	10	神道弁惑	2	—
	11	番神問答	1	—
	12	神学入式	2	—
	13	陽復記	2	—
	14	伊勢太神宮神異記	2	—
	15	神宮秘伝問答	1	—
	16	神国決疑編 上中下	1	—
	17	八箇祝詞国字解	2	—
	18	祝詞考	3	—
	19	春日太宮若宮祭礼図	3	—
	20	神部職任考	1	—
	21	弁道書	1	—
	22	弁々道書	2	—
	23	神道独語	1	—
	24	神道喪祭略私記	1	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 2	1	亀卜行事	1	—
	2	亀卜伝口授	1	—
	3	亀卜相伝秘事	1	—
	4	亀卜秘伝之図	2	—
	5	海北記	2	—
	6	太占奥秘	1	—
	7	豊葦原亀卜兆計ノ巻	1	—
	8	亀卜秘伝ノ巻	1	—
	9	鎮心行事	1	—
	10	亀兆実記	1	—
	11	太占之事 諸書抜書	1	—
	12	対馬国卜部亀卜之次第	1	—
	13	亀卜甲兆秘占 附リ万鏡添箱入	1	—
	14	貞享四年大嘗会記	1	—
	15	神敵吉田兼俱謀計記	1	—
	16	吉田家之事 考物	1	—
	17	将軍家御条目 其外		—
	18	吉田家諸国社家執奏記	1	—
	19	雲上明鑑等 抜書		—
	20	卜部氏姓事 萩原家ノ事	1	—
	21	卜部氏系図		—
	22	吉田家神道之事 考物	1	—
	23	京吉田殿家御証文写并神祇伯職之事	1	—
	24	吉田家之事二付御書附物	1	—

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御 文 庫 書 籍 類 箱 2	25	吉田家執奏之儀	1	—
	26	関東々京都工御伺一件		—
	27	芸州厳島社家執奏之儀		—
	28	雅富王方御窺書		—
	29	控日蓮	1	—
	30	六論衍義大意	1	—
	31	日本歳時記	7	—
	32	庭訓往来捷註	1	—
	33	訓蒙図彙	8	—
	34	和漢年契	1	—
	35	本朝改元考	1	—
	36	多賀大社御文庫書目	2	—
	37	多賀大社御文庫書目	2	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 3	1	大嘗会輯録	1	—
	2	官職知要	2	—
	3	百寮訓要抄	1	—
	4	前王廟陵記	2	—
	5	作者部類	3	—
	6	本朝孝子伝	3	—
	7	本朝逸史	2	—
	8	扶桑隠逸伝	3	—
	9	本朝列女伝	10	—
	10	和論語	10	—
	11	花押藪	7	—
	12	古押譜	7	—
	13	本朝稽古続篇	2	—
	14	農家益	3	—
	15	養蚕秘録	3	—
	16	うひ山踏	1	—
	17	玉くしげ	1	—
	18	神代紀髻華山蔭	1	—
	19	中子乃比礼	2	—
	20	遊和草	2	—
	21	好古日録	2	—
	22	好古小録	2	—
	23	桂林漫録	2	—
	24	胡蝶庵随筆	1	—
	25	牛馬問	4	—
	26	梧窓漫録	2	—
	27	梧窓漫録後編	2	—
	28	橘庵漫筆	5	—
箱 4	1	諸祓	1	—
	2	諸祓之部類	1	—
	3	神道伝授物	1	—

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御 文 庫 書 籍 類 箱 4	4	神道伝授物目録		—
	5	供奉三十二神	1	—
	6	大工ノ番神ノ偽説		—
	7	大黒神之御事	1	—
	8	香椎宮・宇佐宮社伝附武内伝	1	—
	9	諸国神社附大略	1	—
	10	惣社八幡宮御判物類写	1	—
	11	長門五社ノ事	1	—
	12	出雲神社二宮由来	1	—
	13	徳佐八幡宮古文書写	1	—
	14	寺社旧記写	1	—
	15	桜木宮故実写	1	—
	16	周防十神之事	1	—
	17	吉田村平清水八幡宮之事	1	—
	18	諸社祭礼日聞書	1	—
	19	巖隈八幡宮由縁書写	1	—
	20	寺社細録 抜書	1	—
	21	石見国邑智郡静窟 志津大権現之事	1	—
	22	神代之図	1	—
	23	神家日要	1	—
	24	八足机寸法	1	—
	25	鎮札 口伝	1	—
	26	神馬絵馬之事	1	—
	27	神徳之事 諸書抜書	1	—
	28	神社造営之事諸書見聞書抜	1	—
	29	神位ノ事靈神号ノ事考	1	—
	30	霊社便覧	1	—
	31	神職心得集書 古書抜書	1	—
	32	類聚国史 神祇部 抜書	1	—
	33	神無月ノ事 正五九月之事	1	—
	34	舞神楽之考	1	—
	35	鰐口并鈴之事	1	—
	36	四足禁食不禁食考	1	—
	37	神武権衡録	1	—
	38	古事記伝 抜抄	1	—
	39	職原大全 抜書	1	—
	40	足利学校之事	1	—
	41	金沢文庫之事	1	—
	42	皇朝事苑 抜書	1	—
	43	文化十四年九月廿一日御即位次第写	1	—
	44	本朝語園 抜萃	1	—
	45	本朝無題詩 抜書	1	—
	46	無尽集 抜萃	1	—
	47	古実明拠 抜書	1	—
	48	大学或問 抜書	1	—

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御 文 庫 書 籍 類 箱 4	49	閑田耕筆 抜書	1	—
	50	花押	1	—
	51	近世奇人伝 抜書	1	—
	52	古文書写	1	—
	53	大成経鷗鶴伝 抜書	1	—
	54	故実拾要 抜書	1	—
	55	経済録 抜書	1	—
	56	右好覚書	1	—
	57	通俗太上感応篇	1	—
	58	菅神御伝記	1	—
	59	長岡天満宮草創之事	1	—
	60	東鑑 抜書	1	—
	61	博物筌 抜書	1	—
	62	醍醐雑抄 僧俗混合座次之事	1	—
	63	尸書散位尸位考	1	—
	64	古実覚書	1	—
	65	書集草 雑事	1	—
	66	延喜式并風土記全篇之事	1	—
	67	武士高鑑忠義全書 抜書	1	—
	68	秉燭譚 抜書	1	—
	69	高橋朝臣之事 書集	1	—
	70	社家官位大意	1	—
	71	官位入用覚書	1	—
	72	諸装束心得大略私記	2	—
	73	豊後国図田帳	1	—
	74	書集物	1	—
	75	諸国社家盛衰ノ事	3	—
箱5	1	大系図 西道智撰	30	—
箱6	1	諸家大系図	14	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 7	1	新撰姓氏録	3	—
	2	神代系図	1	—
	3	諸家伝 上中下合	1	—
	4	藤原氏系図	3	—
	5	源平系図	1	—
	6	本朝武家大系図	2	—
	7	鎌倉将軍家譜	1	—
	8	京都将軍家譜	2	—
	9	織田信長譜	1	—
	10	豊臣秀吉譜	3	—
	11	大江家御系譜并御末家・吉川家・御六家略系	1	—
	12	毛利家御弓矢次第	1	—
	13	徳川系譜正統	1	—
	14	徳川家譜 抜書	1	—

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御 文 庫 書 籍 類 箱 7	15	大江氏考	1	—
	16	仁保・繁沢家譜 抜書		—
	17	益田家譜 抜書	1	—
	18	吉見家譜・福原家譜・藤原姓世譜・内藤家譜・北条家譜	1	—
	19	官位一件之事	1	—
	20	神前用諸礼式之事	1	—
	21	嵯峨野物語	1	—
	22	元日稿本 寛政七年乙卯写	1	—
	23	地球万国山海輿地全図	1	—
	24	中臣祓古義	2	—
	25	日本書紀纂疏	8	—
	26	吉川惟足詠草 抜書き	1	—
	27	神学者之事 集書	1	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 8	1	禁中并公家諸法度十七ヶ条	1	—
	2	近代年中覚書	1	—
	3	装束図式	2	—
	4	張先生夜話口授	2	—
	5	神道奥儀	2	—
	6	神道問答	1	—
	7	周防国府神社古文書写	1	—
	8	周防国寺院古文書	1	—
	9	周防鑄銭司旧趾考証	1	—
	10	豊後風土記	1	—
	11	先哲叢談	1	—
	12	燕居漫録	1	—
	13	元文後記	1	—
	14	安永後記	1	—
	15	古実秘書	1	—
	16	温故雜記	8	—
	17	日本風土記 長門國	1	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 9	1	日本遷都考	1	—
	2	本朝百将伝	1	—
	3	御文庫書籍類箱9	6	—
	4	大内家譜	1	—
	5	大内氏系図	1	—
	6	多々良姓大内氏歴代系図略記	1	—
	7	大内本系写	1	—
	8	歴名土代 群書類従ノ内	3	—
	9	大内本系并十一家 陶・宇野・鷺頭・右田・杉・仁保・矢田・内藤・間田・冷泉・野上	1	—
	10	武家系図伝	5	—
	11	有職問答	5	—

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
箱9	12	簡礼集	7	—
	13	大内家古実類書 引用書目壺巻相添	60	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 1 0	1	多々良系	1	—
	2	大内家御系譜	1	—
	3	大内家拔書 龍福寺什物之分	1	—
	4	大内家代々記	1	—
	5	大内家御代々肖像 龍福寺ニ有之分写	1	—
	6	大内家古実	1	—
	7	大内家年表	1	—
	8	大内家家譜氷上山伝記奥之考写	1	—
	9	琳聖太子紀有之大内系図	1	—
	10	大内多々良氏譜牒 大内系図	1	—
	11	義興卿之御事集書	1	—
	12	大内義隆公御廟并殉死墓図	1	—
	13	長州萩指月城御修築一件	1	—
	14	南海治乱記 抜書	1	—
	15	氷上山秘奥記	2	—
	16	貫通考書	1	—
	17	宗五大双紙	1	—
	18	大内家御小座敷衆着座之次第	1	—
	19	毛利家正月元朝着座之次第		—
	20	毛利家正月元朝御小座敷之次第		—
	21	毛利家往古ヨリ寄組十家		—
	22	長門国守護代記	1	—
	23	無尽集 抜書	1	—
	24	山口祇園御祭礼之覚 抜書	1	—
	25	雅遊漫録	7	—
	26	宗祇筑紫紀行	2	—
	27	万宝全書 抜書	1	—
	28	鎌倉頼朝公御時代分限簿	1	—
	29	鎌倉時代分限帳	1	—
	30	鎌倉以来將軍次第并執権	1	—
	31	武家百人一首	1	—
	32	侍所沙汰篇壁書類 群書類従ノ内	1	—
	33	毛吹草 半物	1	—
	34	絵本武者縁(録カ)	3	—
	35	勇者錦之陣幕	1	—
	36	古事因縁集	2	—
	37	宗像伝記	1	—
	38	国朝諫諍録	2	—
箱11	1	築山之図	1	—
	2	高嶺両大神宮御鎮座御伝記	1	—
	3	日本惣国風土記 周防国	1	—

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御 文 庫 書 籍 類 箱 1 1	4	大内様御家根本記	1	—
	5	大内記	1	—
	6	国史年表	1	—
	7	日本人物史	7	—
	8	本朝蒙求	3	—
	9	靈符縁起集説	2	—
	10	山口山水記	1	—
	11	大内多々良軍記	6	—
	12	新後拾遺和歌集	1	—
	13	新続古今和歌集	1	—
	14	日本事跡考	1	—
	15	日本二千年袖鑑 三編	1	—
箱12	1	続太平記	32	—
箱13	1	後太平記評判	29	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 1 4	1	明德記	3	—
	2	応仁記	2	—
	3	応永記	1	—
	4	嘉吉記 群書類従ノ内	—	—
	5	大内義隆記中国治乱記 群書類従ノ内	1	—
	6	東武国朝記	6	—
	7	菊池軍記	—	—
	8	佐々軍記	10	—
	9	武田弁略	8	—
	10	絵本彦山靈驗記	10	—
箱15	1	平家物語	24	—
	2	小秘事	1	—
箱16	1	西国盛衰記 惣目録共	18	—
	2	武者物語	6	—
	3	本朝通紀 前編後編 抜書	1	—
箱17	1	平家語本	21	—
御 文 庫 書 籍 類	1	本朝列侯伝	1	—
	2	八箇国御時代分限帳	9	—
	3	慶長武鑑 抜書	1	—
	4	御家中古物之覚	1	—
	5	周防長門之古実	1	—
	6	吉田物語 三ノ巻五十二迄十巻五本ノ附尾ノ巻三巻	9	—
箱 1 8	7	長門小鏡	1	—
	8	防長両国之図 吉敷郡	1	—
	9	長門金匱	1	—
	10	安国記	1	—
	11	清江記 抜書	1	—
	12	鳴榛秘事記	1	—

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
箱18	13	総新録	1	—
	14	拾芥抄 抜書	1	—
	15	江家年表	1	—
箱19	1	神易選	1	—
	2	通変亀鑑	4	—
	3	和漢名数大全 小本	1	—
	4	年中行事	1	—
	5	天明武鑑	4	—
	6	増補地名箋	1	—
	7	文政武鑑 抜書	1	—
	8	弘安礼節	1	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 2 0	1	大和めくりの記	1	—
	2	年代重宝記	1	—
	3	日本玉代	1	—
	4	和字便覧	1	—
	5	万代宝鑑	1	—
	6	武林便覧	1	—
	7	武家官位略記	1	—
	8	武家装束皆具略記	1	—
	9	本朝画印譜	1	—
	10	卜筮手引草	1	—
	11	てにをは便覧	1	—
	12	大坂名所独案内	1	—
	13	山口兩大神宮神系図絵	1	—
	14	神武権衡録 抜書	1	—
	15	内裏図	1	—
	16	細見京図絵	1	—
	17	万世雲上明鑑 抜書	1	—
	18	神祇官領吉田家諸国社家執奏記	1	—
	19	山口神社仏閣一覧	1	—
	20	字引凡例	3	—
御 文 庫 書 籍 類 箱 2 1	1	百姓往来豊年蔵	1	—
	2	葛原詩話 同後編共二	4	—
	3	小児必用記	6	—
	4	人国記	4	—
	5	明君家訓	1	—
	6	和礼儀統要約集	10	—
	7	垣根草	5	—
	8	或問珍	6	—
	9	正名緒言	2	—
	10	東遊記	5	—
	11	西遊記	5	—
	12	西遊記続編	5	—

項目	No.	物品・書籍名	巻冊	多賀社目録
御 文 庫 書 籍 類 箱 2 2	箱21	13 孔子封王弁説	1	—
		14 鄙都言種後編	2	—
		1 伊勢物語	2	—
		2 貫之集	2	—
		3 筑前名寄	2	—
		4 初学和歌式 読方詞寄	3	—
		5 詠歌大概抄	1	—
		6 百人一首抄	1	—
		7 八代記	1	—
		8 修学院御山荘御行粧初度行幸之時 修学寺八 のうた／仙洞御製／御遷行長歌	1	—
		9 集歌三十六歌仙	1	—
		10 元就公詠歌連歌発句	1	—
		11 石見国美濃郡高角野山 正一位柿本大明神千一 百年大祭奉納之歌	1	—
		12 詞用集	1	—
		13 夫木和歌	1	—
		14 山口寺社并古跡案内略記	15	—
		15 米屋町笠着天神社之事	5	—
		16 福部童子之記	1	—
		17 華実年浮草 抜書	1	—
		18 瀨山詩集 抜書	1	—
		19 山口十境略記	1	—
		20 諸国への道程	1	—
		21 古実集書	5	—
箱23		1 近衛尚通公日本紀伝歌秘註	1	—
		2 新内裏御襖の和歌	1	—
		3 玉鉾百首	1	—
		4 周防長門名所のうた	1	—
		5 鳴の羽かき	3	—
		6 能因歌枕	1	—
		7 周防長門国古実類書	1	—
		8 新撰菟玖波集	5	—
箱24		1 老葉 宗祇注・宗長注	1	—
		2 発句千部	1	—
		3 大原千句	1	—
		4 連歌安心集	1	—
		5 連歌用	1	—
		6 玄仍七百韻連歌	1	06-013